

教宣 せぶん

自然治癒力と東海経営

寒い季節になりました。冬を迎えると、TVコマーシャルで増えるのが風邪薬のCM。しかし、この類のCMを見るといつも疑問に思うことがあります。それは、「風邪の症状」と「自然治癒力」の関係です。そもそも風邪を引いて熱が出るのは、ウイルスや風邪の菌を、人間が持つ自然治癒力が働いて、体温を上げることで熱処理しようとしているからではないでしょうか。同じように、クシャミや鼻水、咳なども、ウイルスや菌を体外に排出させようとする自然治癒力の働きではないでしょうか。そういった働きとともに自然治癒力は、頭を痛くさせたり、体をだるくさせたり、節々を痛くさせたりして、「休ませろ」というサインを体に出します。そして、ゆっくりと、自然に風邪を治すことで、人間の体には「免疫」が備わっていきます。ですから、熱が出ることも、クシャミや鼻水、咳が出ることも決して「悪い」ことではなく、自然治癒力が正常に働いている「良い」ことのはずです。

しかし、現在の風邪薬のCMは、「熱が出ること」や「咳が出ること」を悪玉に見立て、化学物質である「薬」を善玉に、化学の力で人間の持つ自然治癒力を抑え込んでしまおうとしています。1時間でも、1分でも早く風邪の症状を消してしまうことが、素晴らしい薬であると定義していますし、体にとって「良い」ことだと決めつけています。これで「免疫」が備わるでしょうか？ 自然治癒力が養われるのでしょうか？ 「あべこべ」とはこのことです。風邪薬のCMを目にすると現代社会の「毒されている」部分を感じてしまいます。

同じ「毒されている」という感覚をこの企業の経営にも持ちます。自分たちと異なる角度からものを言うことを「悪玉」と決めつけ、毛嫌いし、パワーで追い出そうとしています。ちょうど、自然治癒力である「熱」や「クシャミ」や「咳」を薬で抑え込むことに似ています。薬に頼って風邪を治してきた体が、免疫がなく、自然治癒力が失われ、病気に弱い病んだ体になっていくように、「おかしい」と感じ、声をあげる者を排除し、経営と同化するものばかりを集める企業は、自浄能力やチェック機能が失われていきます。どちらも決して健康体であるとは言えません。私たちは、この企業を健康体に戻すためにも、自然治癒力としての役割を果たしていきましょう。